

1―12

一筆申入候、大屋九右衛門  
当夏磯竹江渡候船之

内、一艘朝鮮国江被放

船者破損候とも人ハ損

不申、釜山海より宗

對馬殿へ送り届候由

對馬殿より殿様大坂

御藏屋敷迄申来候由候

右之様子對馬殿より

言上之上を以重而

御左右可在之と聞之

申候間、追付様子可

相聞候、無異儀罷

戻ニ而可在之候、右之

者共妻子行末不存

歎居可申候間、右之趣

被仰聞候ハ、安堵可申候

此通大屋へ可被申渡候

恐々謹言

荒内匠

十一月廿二日 □（花押）

坂川分左衛門殿

大脇多左衛門殿